

耳鼻咽喉科単科病院としての可能性を追求 高い実績誇る中耳手術、新たな手術分野も導入

—機器の新規導入と近隣病院との連携で高い診療レベルを維持—



医療法人興花会

理事長 ^う ^だ ^か ^つ ^よ ^し
宇高 毅

耳鼻咽喉科 堀病院

〒720-0825 広島県福山市沖野上町3-4-13 TEL:084-926-3387
URL:<http://www.hori.or.jp/> E-mail:info@hori.or.jp

耳鼻咽喉科 東手城医院

〒721-0962 広島県福山市東手城町1-3-11 TEL:084-983-3341
URL:<http://www.healthcare-mall.jp/shisetsu/higashiteshiro.html>

はじめに

当院は、昭和51年の開院以来、堀興雄院長の下、中耳手術の専門病院として頑張ってきました。しかし、昨年より医師の交代に伴い、さらなるステージへのステップアップとして、①鼻副鼻腔手術など新たな手術分野の導入、②Narrow Band Imaging (NBI) 電子内視鏡をはじめとした最新機器の導入、③全身麻酔の導入、④睡眠時無呼吸症候群の検査・治療の導入、⑤耳鳴りに対する Tinnitus Retraining Therapy (TRT) 療法の導入、⑤完全ペーパーレス化した分院の開設など、従来の強みを生かしながら、さらなる発展のため新たな技術と機器の導入に踏み切りました。

私は平成8年に産業医科大学を卒業し、同大学耳鼻咽喉科学教室に入局しました。学生時代に野球部であった私の打撃力に期待して耳鼻咽喉科に導いてくださった牧嶋和見教授をはじめとして、助教授の吉田雅文先生、講師の杉本卓矢先生、藤吉達也先生、黒田嘉紀先生、相良哲哉先生には様々な面でご指導いただき、厳しいながらも大変充

実した日々を過ごさせていただきました。また、現教授の鈴木秀明先生におかれましても、手術などの臨床面だけではなく、学術面においても丁寧にご指導いただき大変学ぶことが多い毎日を過ごさせていただきました。

産業医科大学病院以外では九州労災病院と熊本労災病院の部長を経験させていただき、縁あって平成22年10月より堀病院にお世話になることとなりました。当初は一般病院との違いに悩む時期もありましたが、現在では、全国的に珍しい当院のような耳鼻咽喉科単科病院の存在意義を見いだすことができるようになり、その可能性に期待を膨らませている毎日です。

また平成23年2月には、野球部時代からの後輩である平木信明先生が分院長としてメンバーに加わり、さらに充実した診療体制を築くことができるようになりました。今回の臨床最前線では、これら徐々に変革する堀病院の一端をご紹介させていただきます。



堀病院外観

沿革と概要

本院の沿革と、本院および分院の概要について次にご紹介

いたします。

1. 沿革

昭和51年11月

堀興雄が19床で耳鼻咽喉科堀病院を開院

昭和56年1月

39床に増床・移転、耳鼻咽喉科堀病院となる

平成12年8月

法人化し、医療法人興花会堀病院となる

平成23年2月

福山市東手城に分院（東手城医院）を開設

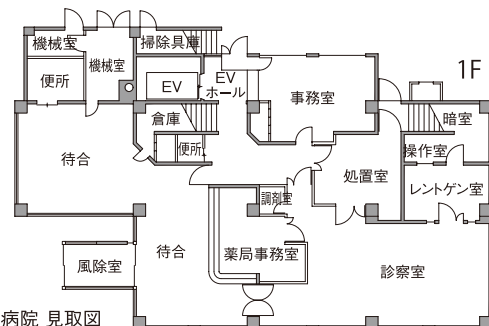
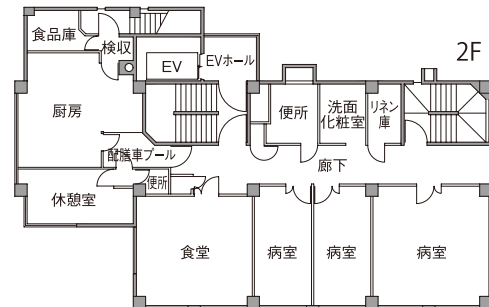
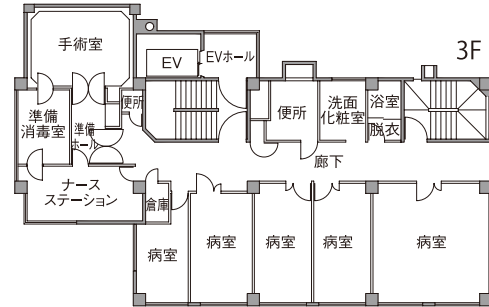
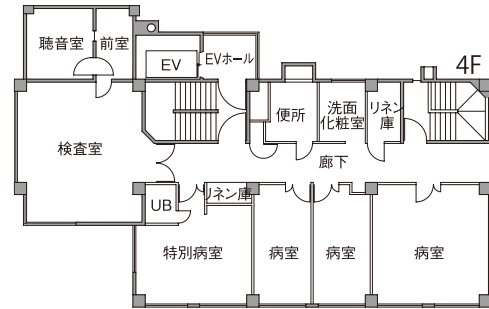
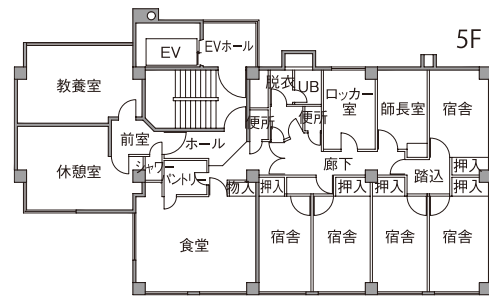
平成23年4月

医療法人興花会を宇高毅が承継

2. 耳鼻咽喉科 堀病院

本院は、地上6階建てで、駐車場は60台が駐車可能となっています。病床は39床で、看護基準は15対1を取得しております。スタッフは総勢42名（常勤医師3名、非常勤医師6名、看護師20名、看護助手4名、事務6名、臨床検査技師1名、薬剤師1名、管理栄養士1名）です。

外来設備としては、胸写も撮影できるレントゲン装置、NBI電子内視鏡（オリンパス）、鉗子付き電子内視鏡、処置用顕微鏡（ライカ）、超音波検査機器、呼吸機能検査機器、鼻腔通気度計、純音聴力検査機器、ティンパノメトリー、耳管機能検査機器、重心動揺計、簡易型睡眠呼吸モニタ

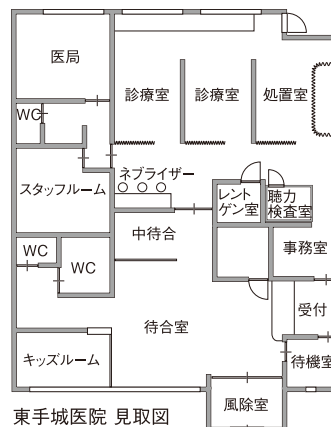


堀病院 見取図

ー、解析機能付き心電計、スーパーライザーなどを有しております。また、コアシステムズの順番予約システムも導入し、患者様の待ち時間短縮に努めております。



東手城医院外観



東手城医院 見取図

手術・入院設備としては、ラジオ波凝固装置、マイクロデブリッター (XPS3000/Medtronic)、超音波凝固装置(ソノサージ/オリンパス)、顔面神経モニタリング装置(NIM response/Medtronic)、手術用顕微鏡2台 (OpMi-1/ZEISS、M525 F40/ライカ)、全身麻酔器(エスパイアtype300/GE)、手術用電気メス、ビデオラリソシステム(Storz)、ポリソムノグラフィ (Alice PDx/PHILIPS)などの装置を有しており、今後も新しい有用な機器があれば順次導入していく予定としております。また、ホームページも開設しておりますので、ご参照ください。

3. 耳鼻咽喉科 東手城医院

分院は、山下医科器械が運営する東手城ヘルスケアモール内にあり、モール内には共用ではありませんが、200台分の駐車場が確保されています。スタッフは総勢11名(常勤医師1名、非常勤医師2名、看護師3名、看護助手3名、事務2名)です。分院の診察室は2診体制で、各診察室に電子カルテと画像ファイリングシステムが備え付けられており、すべての検査でペーパーレス化を実現しております。また本院と同様に、順番予約システムを導入し、待ち時間解消に努めております。

設備としては、耳鼻科用レントゲン、電子内視鏡(ペンタックス)、処置用顕微鏡(OPMI pico/ZEISS)、超音波検査機器、呼吸機能検査機器、鼻腔通気度計、純音聴力検査機器、ティンパノメトリー、DPOAE、簡易型睡眠呼吸モニター、重心動揺計、赤外線フレンチェル眼鏡、CO₂レーザーなどを有しており、一般診療所としてはかなり充実した機器を揃えているものと自負しております。詳しくはホームページをご参照ください。

当院の特色

1. 外来部門

当院は、従来からの流れで、難聴、耳鳴り、めまいなどの耳に関する症例が、福山市近辺だけではなく、時には県外からも受診されることがあり、その責任は重大と考えております。

難聴に関しては、純音聴力検査やティンパノメトリーなどの一般的な検査に加えて、DPOAEや耳管機能検査機器などの特殊検査機器を駆使し、さらに詳細な画像検査をもとに、その原因を明らかにしたうえで適切な治療を行うよう心掛けております。

耳鳴りに関しては、従来からの薬物療法に加えて、スーパーライザーによる星状神経節近傍照射を行っています。さらに薬物に反応しない慢性の耳鳴り症例に対しては、TCIを用いたTRT療法をマキチエ株式会社の協力の下、第1、3金曜日の午前中に耳鳴り・補聴器外来として行っています。

メニエール病をはじめとするめまい関連疾患に対しては、その原因を検索しながら、原因に沿った治療法を行うように努め、中枢性が疑われる症例には、近隣の脳神経外科と協力してMRIなどで精査を行うようにしております。また、良性発作性頭位めまい症においては、耳石置換法(後半規管型に対してはEpley法、外側半規管型に対してはLempert法)を積極的に試みるようにしております。

最近、当院の鼻副鼻腔手術件数の増加に伴って鼻閉、鼻汁、くしゃみを主訴とする鼻副鼻腔疾患



NBI電子内視鏡



超音波診断装置



麻酔器



NIM response



マイクロデブリッター

おもな
診療機器



ソノサージ



手術用電気メス

の外来患者数が増加しております。これらの症例においても、まず外来でレントゲン検査、鼻汁の細菌培養検査、鼻汁好酸球検査、MAST、鼻咽腔ファイバーなどの検査を行い、原因を追究したのちに適切な治療を行うよう努めております。

頸部腫瘍に関しては、触診に加えて超音波検査機器などの診断機器を用いて診断を行うようにしています。それでも診断が困難な場合には、近隣の施設でさらに精密な画像検査（造影CT、造影MRI、シンチグラフィ）を行って、診断の補助としています。これらの検査で腫瘍性病変が疑われる場合には、エコーガイド下に穿刺吸引細胞診を行い、良性の可能性が高い場合は当院で手術

を、悪性が少しでも疑われる場合には適切な医療機関に紹介するように努めています。

いびきや夜間無呼吸を指摘されている症例に対しては、外来で睡眠時無呼吸の簡易検査を行っています。また、さらに睡眠呼吸障害が疑われる症例に対しては、咽頭の所見だけではなく、鼻腔の疎通性についても注目して検査を行うようにしています。とくに鼻閉は、単にn-CPAP導入の妨げとなるだけではなく、直接的に日中の眠気や睡眠呼吸障害の原因となる場合がありますので、今後これらの因果関係や治療法についても詳細に検討してまいりたいと思っております。表1に、われわれが以前に発表した鼻閉と眠気に関する文献を示します。

表1. 鼻閉と眠気に関する文献

- 1) Udaka T, Suzuki H, Kitamura T, Shiomori T, Hiraki N, Fujimura T, Ueda N: Relationships Among Nasal Obstruction, Daytime Sleepiness, and Quality of Life. *Laryngoscope* 116(12): 2129-2132, 2006
- 2) Udaka T, Suzuki H, Fujimura T, Hiraki N, Ohkubo J, Shiomori T, Ueda N, Hashida K, Mori T, Fujino Y: Chronic nasal obstruction causes daytime sleepiness and decreased quality of life even in the absence of snoring. *Am J Rhinol* 21: 564-569, 2007
- 3) Udaka T, Suzuki H, Fujimura T, Hiraki N, Shiomori T, Kitamura T, Ueda N, Inaba T, Fujino Y: Relationships between nasal obstruction, observed apnea, and daytime sleepiness. *Otolaryngol Head Neck Surg* 137: 669-673, 2007
- 4) Udaka T, Suzuki H: In reference to Nasal obstruction, Sleep disorder, and fatigue: cause and effect remain elusive. *Laryngoscope* 117:954-955, 2007
- 5) Hiraki N, Suzuki H, Udaka T, Shiomori T: Snoring, daytime sleepiness, and nasal obstruction with or without allergic rhinitis. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 134: 1254-1257, 2008



手術風景



手術室

2. 入院部門

従来より、当院が最も得意としている慢性中耳炎や真珠腫性中耳炎には、聴力改善を目的とした鼓室形成術を局所麻酔下に行っています。本院の堀院長は、これまで4,000例を超える慢性中耳炎手術を実施し、かつては「鼓室形成術」の症例数で全国ランキング入りするなど、極めて高い診療実績を誇っております。今後もこの伝統を守るためにも中耳手術の技術向上に努めてまいりたいと思っております。

最近、当院のもう一つの柱として、外来治療が無効であった慢性副鼻腔炎症例に対して、内視鏡下副鼻腔手術を行っております。また、内服治療に抵抗を示すアレルギー性鼻炎の重症例に対しても粘膜下甲介切除術や後鼻神経切断術などの手術治療を導入し、入院期間はいずれも概ね1週間程度で行っております。鼻閉の原因となる鼻中隔彎曲症についても、こられる手術に加えて積極的に施行するように努めております。

さらに、耳下腺、顎下腺、甲状腺の頭頸部良性疾患に対しては、術中に顔面神経をモニタリングできるMedtronic社のNIM responseを用いて安全な手術を行うよう心掛けています。そのほかにも、慢性扁桃炎や扁桃肥大に対して超音波凝固装置（ソノサージ）を用いた口蓋扁桃摘出術を、声帯ポリープ、ポリープ様声帯、喉頭腫瘍に対してはStorz社製ビデオラリンゴシステムを用いた喉頭微細手術を行っています。

手術以外にも、急性扁桃炎や急性喉頭蓋炎など

の急性感染症に対する入院点滴治療、突発性難聴やめまい疾患に対する安静点滴治療およびスーパーライザーによる星状神経節近傍照射も積極的に行っています。そのほか、簡易検査で睡眠時無呼吸症が強く疑われる症例に対して、Full PSGを用いた1泊検査入院を行い、扁桃肥大や鼻閉を原因とした睡眠呼吸障害に対しては手術を検討するようにしております。

手術実績

火曜日と金曜日は局所麻酔による手術（主に鼓室形成術）、土曜日は全身麻酔による手術を行っています。当院の手術実績を表2に示します。

表2. 当院の手術実績(平成22年10月～平成24年2月)

中 耳・外 耳	
鼓室形成術(乳突洞削開術)	79
鼓膜形成術	3
外リンパ瘻閉鎖術	3
アブミ骨可動化術	1
耳瘻管摘出術	1
鼻 副 鼻 腔	
内視鏡下副鼻腔手術(側)	193
粘膜下甲介骨切除術	36
鼻中隔矯正術	61
後鼻神経切断術	12
内視鏡下眼か骨折整復術	1
口 腔・咽 頭	
両口蓋扁桃摘出術	9
アデノイド切除	1
頸 部・喉 頭	
喉頭微細手術(ポリープ、喉頭腫瘍)	6
耳下腺腫瘍	13
顎下腺腫瘍・唾石	4
甲状腺腫瘍	2
舌下腺摘出術	1
頸部腫瘍(リンパ節など)	2



当院スタッフ
前列左から、平木信明院長(東手城医院)、私、堀興雄院長(堀病院)、森田善雄医師

病診連携

当院の近隣には、国立病院機構福山医療センターをはじめ、脳神経の専門病院である大田記念病院や、循環器の専門病院である福山循環器病院などの高度な先進医療を行っている施設が多くあり、あらゆる面で大変お世話になっております。特に道路を隔てた向かい側にある大田記念病院は中四国でも有数の脳神経外科専門病院であり、3 Tesla MRIや64列CTなどの最新機器を共同利用させていただいているおかげで、当院のような単科病院でも診療レベルを下げることなく正確な診断が行える環境となっております。

また最近では、近隣の耳鼻咽喉科の先生方をはじめ、他科の先生におかれましても、耳鼻咽喉科に関係する疾患に関して多くの症例を紹介していただけるような環境になりつつありますので、大変感謝しております。

さらに、福山市で唯一耳鼻咽喉科を有する公的な医療機関である福山市民病院の先生方には、当院で対応困難な症例をたびたび紹介させていただき、大変お世話になっております。そのほかにも悪性腫瘍でお世話になっている川崎医科大学耳鼻咽喉科の先生方や、リンパ腫や形質細胞腫で大変お世話になっている中国中央病院の血液内科の先生方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後に

最近、地方の医師不足は深刻で、耳鼻咽喉科も例外ではありません。福山市内においても、総合病院における耳鼻咽喉科の閉鎖や縮小は増加の一途をたどっており、かつて福山市内に4施設あった耳鼻咽喉科の手術を行う総合病院は、現在、福山市民病院の1施設しか存在しないのが現状です。

今後、当院は、中四国地方で唯一の耳鼻咽喉科単科病院であるという強みを生かしながら、従来から得意としている鼓室形成術のみならず、さらに発展させて、耳鼻咽喉科全般の手術を行う備後地区の耳鼻咽喉科サージセンターを目指してまいりたいと思っております。

また将来的には、開業後も手術を行いたい先生方が自ら症例を連れてきて手術が行える耳鼻咽喉科のオープン病院を目指したいとも思っております。このためには周囲の医療機関との連携は不可欠と考えておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

最後に当院では、共に当院を盛り立ててくれるやる気のある先生を募集しております。年齢、経験は問いませんので、やる気がある興味のある方は、ぜひご一報いただければと思います。